

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871500025
法人名	有限会社 やわらぎ
事業所名	グループホーム やわらぎ川内
所在地	愛媛県東温市南方1787-2
自己評価作成日	平成24年7月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

夏祭り・DVD鑑賞

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年7月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●毎年、利用者からご家族へ、顔写真付きの年賀状を出すことを支援されている。利用者の力量に応じて、ご本人がご家族へメッセージを書いたり、職員が代筆されている。定期的にご友人の方が会いに来てくださるような方もあり、職員がお茶やお菓子をお出して、ゆっくりしてもらえよう心配りをされている。美容師をしている利用者のご家族が、ご本人のカットに来られた際、他利用者のカットもして下さったことがある。年2回は、事業所全体で夏祭りや年末の餅つきを行っておられ、利用者同士ふれ合う機会もあり、又、数名の利用者は、ユニット間を、行き来して交流されている。</p> <p>●以前から園芸がお好きで、ご自宅でもいろいろなお花を育てられていた方は、事業所の庭でも、いろいろな植物を育てておられたが、現在は、暑い日が続き、体調が思わしくないため、室内の植物の世話をされている。ご本人は外の様子が気になるようで、職員が利用者の代わりに草抜きや手入れ等をされ、ご本人の体調の良い時には、少し外に出て手入れ等を楽しめるよう支援されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 やわらぎ川内

(ユニット名) B棟

記入者(管理者)
氏名 高場 淳也

評価完了日 H24年 7月 3日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所の理念だけでなく、スタッフ一同で考えた理念を作り、実践しようと努力している。 (外部評価) 「かけがえのない人生の終盤期を住み慣れた地域で暮し続けることができるよう支援します」等、事業所理念を掲げておられ、理念に沿ったケアが具体的に実践できるように、ユニット理念を年度ごとに作成されている。ユニット理念は、年度の終わりに職員で振り返ったり、達成状況を確認されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩の際、近々の方と挨拶をしたりしている。畑作りのアドバイスをして頂いている。 (外部評価) 事業所は、「地域の方達にもっと事業所を知っていただきたい」「来ていただきたい」との思いから、地域の組に加入されている。そのことがきっかけとなり、組長の方とのつながりができ、事業所にも回覧板を回して下さるようになった。回覧板で地域の情報を得て、職員は地域清掃などに参加されている。事業所では毎年、夏祭りを行っておられ、今年は地域の7地区に回覧板を回して案内していただいた。又、利用者と買い物によく行く近所のスーパーに、ポスターを貼らせていただいた。入居してから事業所の畑で野菜作りを始めた利用者がおられ、近所の農家の方が畑で作業している時に、作り方を教えてもらいに行かれたり、時には、野菜の苗をいただくこともある。又、近所の農家の方も事業所の畑の様子をみに来てアドバイスして下さることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) なかなか活かすことができていない為、今後努力していきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
				2ヶ月に1回行い、地域の方、家族の方から意見を頂いている。今後、スタッフや家族等、誰もが参加できるよう努めている。
			(外部評価)	
				管理者は今後、「地域の方にもっと会議に参加していただけるよう呼びかけていきたい。」と話しておられた。さらに、「研修受講後には研修内容を報告したり、又、事業所の専門性を活かして地域の方達の介護の悩みをお聞きするような機会も作りたい」と思っておられる。会議に参加できなかったご家族にも会議内容を報告する等して、意見等を聞いてみたり、又、利用者にかかわりのある地域の方にも会議参加を呼びかけて、今後もさらに地域にネットワークを拡げていかれてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
				地域包括支援センターより月1度、相談員が来られている。
			(外部評価)	
				管理者は、地域包括支援センターの担当者に、「地域のグループホーム同士で交流したり、意見交換する場が作れないか」相談された。そのことがきっかけとなり、センターが主催で、2ヶ月に1回、市内のグループホーム、小規模多機能、小規模特養事業所の職員が集まる機会を作ってくださいている。親睦を図ったり、又、各事業所で支援が難しいような事例を持ち寄り、お互いアドバイスし合う等されている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
				意識して身体拘束しないケアに努めている。
			(外部評価)	
				職員が日々のケアに取り組む中で、「身体拘束に当たるか」と、悩むような場合には、職員で意見交換したり、話し合うようにされている。調査訪問時、利用者が職員に預けているたばこを受け取って、外の喫煙所に行かれたり、ご自分が世話されている畑の様子を見に行かれる様子がみられた。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)		
				スタッフ同士が注意を払い気を付けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)		
				学ぶ機会が持てていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)		
				契約の際、十分な説明を行い、理解、納得して頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)		
				運営推進会議で話を聞いたり、面会時に話を伺い、反映に活かすよう努めている。	
			(外部評価)		
			ご家族に、運営やケアに関するアンケートを実施され、「医療に関する不安」「外出する機会を増やしてほしい」等の意見が出された。アンケートにある意見をもとに、職員会で話し合わせ、急変時に備えて、「緊急対応マニュアル」や「連絡体制」を見直されたり、消防署での救命法の講習会にも参加された。又、外出支援については、「介護計画にも採り入れて支援する」ことを決められた。評価実施は、「家族アンケート」という形で、ご家族にも協力いただき取り組んでいることから、評価結果や目標達成計画について分かりやすくご家族に報告し、意見や要望を聞き取ってみたい。		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			スタッフ会や書面にて意見を伝えている。日常的に意見交換が以前よりできてきている。	
			(外部評価)	
			すぐに横になりたくなる利用者には、少しでも起きて居て、皆と過ごす時間が作れるように、職員が居間で足浴やマッサージすることを決め、実践されている。ご本人との会話も次第に増えてきているようだ。利用者が外出して楽しめるよう、職員からの提案で、お弁当を持って出かけたり、喫茶店にお茶を飲みに行ったりされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			努めているが、できていない部分もある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			法人内研修を2ヶ月に1回おこない、積極的に進めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			月1回、同業者と意見交換をおこなっている。相互訪問も年1回おこなっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			本人の不安、困っていることに耳を傾けながら関係づくりに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の方の困っていること、要望等に耳を傾け、関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と話し、対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方にアドバイス、意見をもらったり、スタッフ、利用者がお互いに楽しく過ごせるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の方の変化等、こまめに家族に連絡し、共に支えていくよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 電話で話されたり来所して頂き関係が途切れないよう努めている。昔から行っている病院や散髪屋に行ったりしている。	
			(外部評価) 毎年、利用者からご家族へ、顔写真付きの年賀状を出すことを支援されている。利用者の力量に応じて、ご本人がご家族へメッセージを書いたり、職員が代筆されている。定期的にご友人の方が会いに来てくださるような方もあり、職員がお茶やお菓子をお出して、ゆっくりしてもらえるよう心配りをされている。美容師をしている利用者のご家族が、ご本人のカットに来られた際、他利用者のカットもして下さったことがある。年2回は、事業所全体で夏祭りや年末の餅つきを行っておられ、利用者同士ふれ合う機会もあり、又、数名の利用者は、ユニット間を、行き来して交流されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士で話されたりするよう見守りながら支援している。一人ひとりの個性を大切にしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 相談があれば対応するよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) できる限り本人の希望、意向の把握に努めている。 (外部評価) 管理者は、利用者の思いや意向を知るためにも、日々の介護記録には利用者の発した言葉をそのまま書くように指導されている。以前から園芸がお好きで、ご自宅でもいろいろなお花を育てられていた方は、事業所の庭でも、いろいろな植物を育てておられたが、現在は、暑い日が続く、体調が思わしくないため、室内の植物の世話をされている。ご本人は外の様子が気になるようで、職員が利用者の代わりに草抜きや手入れ等をされ、ご本人の体調の良い時には、少し外に出て手入れ等を楽しめるよう支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 個人情報を見たり本人、家族から聞き、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の状態を見て無理のないよう生活して頂き、記録にも残している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月に1回ケアプラン等について話し合い、本人、家族の意見も取り入れ作成するよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>アセスメントは、介護度に変化があった場合に更新されている。モニタリングは、毎月のミーティング時に行って、介護計画は3ヶ月ごとに見直しされておられる。ご家族の希望は年1回、利用者の希望は日々の生活の中から把握に努めておられる。事業所では現在、介護計画に関する書類について、職員に解りやすいよう見直しているところであった。</p>	<p>介護計画を作成する流れや必要性をすべての職員で理解して、日々、介護計画に沿った支援が実践できるよう仕組みを作っていかれてほしい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の様子やケアを記録に記入し、情報をスタッフ間で共有しながら活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>外出や病院受診を個々に対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者のしたいことは、なるべくできるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者や家族の希望に沿って受診するようにしている。	
			(外部評価) 開設当初から病院受診は職員が対応して来られたが、職員の手不足等のこともあり、現在、徐々にご家族に対応していただけるよう移行しているところである。医療面での治療方針等は、医師が直接ご家族に説明されている。急変時、職員が落ち着いて対応できるように、職員室には、「緊急時の対応マニュアル」を貼っておられ、職員会議で対応や連絡体制の確認等をされている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけのDrに連絡している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時、医療機関と連絡を取り、情報交換をおこなっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 話はしているが十分でない。今後、本人の思い、家族の思いを確認し、十分な話し合いが必要。	
			(外部評価) 事業所では看取りの指針を作成し、法人内・事業所内で「看取り支援について」研修会を行っておられる。利用者からは、日々の会話の中から、「最期までここに居たい」という希望を聞くことも多いようだが、ご家族は看取りに直面すると、入院を望まれる場合が多いようだ。 リーダーは、「どこからが看取りとなるのか線引きが難しい」と話しておられた。利用者を最期まで看ることもできる事業所でもあり、今後、医師、ご家族、職員で方針を共有するような機会を作ったり、ご家族が心配に思っていること等についても聞き取ってみたいはどうか。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急救命講習に参加するようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は年2回おこなっているが、地域の方の参加はできていない。	消防署からのアドバイスをもとにして、運営推進会議等も活かして、利用者等の安全のために事業所でどのような方策が必要かということ具体的に話し合ってみてほしい。又、地域の方やご家族にも訓練に参加いただいたり、事業所の取り組みを報告して、いろいろな人の意見や気付きをもとに、体制作りに取り組んでいかれてほしい。
			(外部評価) 日中、夜間の火災を想定して、年2回、消防署の立ち合いのもと避難訓練を実施しておられる。消防の方からは、「本番さながらに取り組むこと」や地域の方達の協力が不可欠であり、「地域の方達にも避難訓練時に参加してもらうこと」等についてアドバイスをいただいた。隣接の他福祉施設からは、「災害時にはウチに避難してきてください。」との声をかけてもらっている。事業所では今年秋頃にスプリンクラーを設置する予定となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) できる限り不快な思いのないよう言葉づかい、行動に気を付けて対応している。	
			(外部評価) 習字がお得意な方に掲示物の字や夏祭りのポスターの見出しを書いてもらったり、他利用者の俳句作品を書いてもらったりされている。利用者同士、以前から知り合いだった方も多く、中には、口外してほしくないような個人情報を話してしまうような場合もあるようだが、利用者が気分を害されないように職員が仲に入るようにされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 買い物支援等、自己決定できるよう、声をかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべく一人ひとりのペースや希望に沿って過ごして頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人の好みを聞き、選んで頂いたりホームで髪を染めたりされている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 何か食べたい物を聞いたり、味付けをアドバイスして頂いている。台拭き等の手伝いもして頂いている。 (外部評価) 利用者は包丁でジャガイモの皮むぎをされたり、男性の利用者も調理が得意な方は一緒にされている。食後にはランチョンマットを畳んで片付けてくださったり、職員がお盆を持っていくと、利用者が食器を重ねてお盆に置いてくださっていた。お酒の好きな男性利用者の方は、医師やご家族等とも相談して、父の日に、日本酒を少し飲めるよう支援された。事業所の庭で採れる梅で梅酒を作ったり、干し柿作り等して季節ごとに楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 必要に応じて、量や具の大きさを工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後は口腔ケアを行って頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
				パターン表をつけて排泄の声かけをおこなっている方や、食事前後に声をかけている方もいる。
			(外部評価)	
				布パンツを使用している利用者は、「トイレに間に合わず失敗することがないように」、時間ごとにトイレ誘導して支援されている。夜間にパットやオムツを使用する方も日中は可能な限りトイレで排泄できるよう、利用者によっては職員が2名で介助して支援されている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
				野菜を多く使った料理にしている。時々、牛乳を飲んで頂いたり、漢方薬を使われている方もいる。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
				できる限り好きな時間に入って頂くよう努めている。ゆっくり入浴される方もおられる。
			(外部評価)	
				週に2回は入浴できるように、1日3~4人程度入浴するように支援されている。車椅子を使用されている利用者の方は、職員2名で安全に浴槽で温まれるよう支援されている。時季によってゆず湯等も楽しまれている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
				希望に沿って昼寝される方もおられる。起床時もその人その人の状態を見ながら起きて頂いている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬錠ファイルを作成し、目的や副作用の把握に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 趣味や好きなことに取り組めるよう支援している。散歩や買い物、気分転換にドライブをして頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) できる限り外に出る機会を作っている。家族の方と出かける方もおられる。	
			(外部評価) 利用者は職員と飼い犬の散歩に行かれたり、食材の買い出しに出かけて、カートを押してくださる方もいる。車椅子を使用している利用者の方も、職員と近くの神社まで散歩されている。時には、お弁当を持って公園に出かけたり、今後は、上林森林公園のそうめん流しに行く計画を立てておられ、利用者も楽しみにされていた。ご家族と、お墓参りや外食、小豆島に日帰り旅行される方もある。	今後さらに、積極的に地域の中に出かけて行き、利用者も地域行事に参加したり、地域の方達とふれ合えるような機会作りに取り組んでいかれてほしい。又、外出支援は、ご家族も事業所に期待している支援でもあり、今後はご家族とも話し合い、一緒に出かけて楽しむような機会も作ってみてはどうだろうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は事務所で管理させて頂いており、外出時、好きな物を購入できるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば電話をして頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
				季節を感じられる物を掲示したり、花を飾ったりしている。
			(外部評価)	
			事業所は平屋造りで中庭を挟み2つユニットが建っている。利用者や職員は玄関を出て隣のユニットに行き来されている。利用者が世話している畑にはスイカが育っており、利用者は「美味しいかわからんけど、夏祭りに来てくれた人に食べてもらおうと思って」と笑顔で話してくださった。居間の壁には、利用者と職員が一緒に作った朝顔や金魚の折り紙作品を飾っておられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
				なるべく自由に移動して頂いている。TV付近にソファを置き、自由に使われている。
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
				タンス等の家具は今まで使用していた物を持ってきて頂き、本人、家族と相談し家具を置くようにしている。
			(外部評価)	
			居室には、外出時や普段に撮った写真やお孫さんの写真、市からの長寿の表彰状や職員からの誕生日のメッセージ等が飾られてあった。野球がお好きな方は、野球選手の顔写真を貼っておられ、居室のテレビで高校野球等を楽しみに観戦されている。仏壇を持って来られている利用者は、庭のお花を世話している利用者にお聞きしてから花を摘み、仏壇に供えておられる。調査訪問時、昼食後、自室でベッドに横になりテレビをみている方がおられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
				できる事はやって頂き、手を貸し過ぎず近くで見守りしている。